

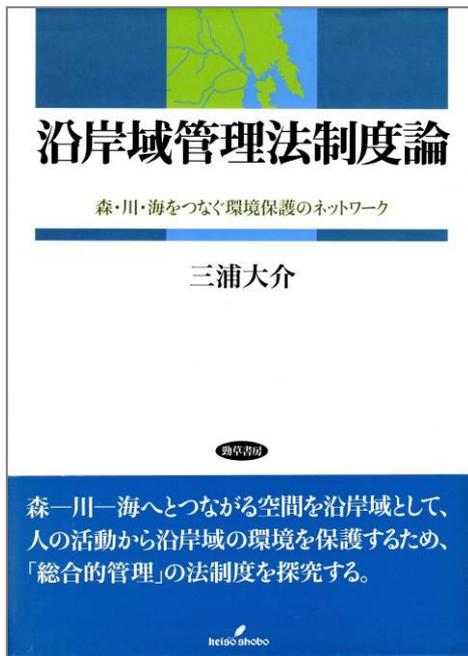
## 河川書の探求(7)

### 水辺空間の魅力

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

#### 1. 河川法の改正

三浦大介著『沿岸域管理法制度論－森・川・海をつなぐ環境保護のネットワーク』(勁草書房・2015)は、森・川・海の連続した空間を沿岸域として捉えその自然環境保護を図るための「総合的管理」法制度の構築に必要な法制知識と諸問題の解決方法をテーマにしている。



この書で「河川法の歴史と仕組み」において、次のように述べている。

1896(明治 29)年、治水事業への要望が高まり、高水工事を中心とする治水対策を目的とした河川法が制定された。利水目的は制定されず、その後、日露戦争などによる需要が増大した水力発電に伴う河川流水の利用に対応できなかった。

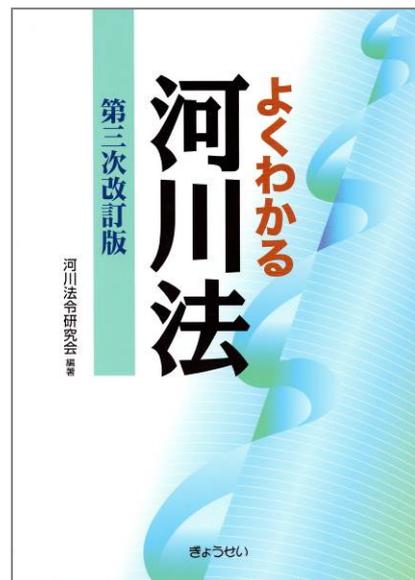
漸く戦後に復興需要のために、農林省等の利水に伴う法整備がなされ、1964(昭和 39)年水資源の総合的利用・開発に寄与するため従来の区間主義の河川管理体系から水系一貫管理へと移行し、利水関係規定の整備、ダムの設置、操作に起因する防災のための規定が設けられた。治水と利水を目的とした河川法の制定であった。

その後高度経済成長により、公害が発生し、川が汚れ、また治水対策として、都市部の中小河川はコンクリート三面張りの直線的な河川工事が施工された。このような状況から河川環境の視点重要視されるようになり、建設省(当時)は

1990(平成 2)年近自然工法・多自然型川づくり工法の採用を可能とする自然にやさしい、生態系が孤立しない河川環境の保全を打ち出した。

1997(平成 9)年河川法の改正において、河川環境の保全の目的が制定された。なおかつ河川整備計画の策定がなされた。河川環境の整備は、積極的に良好な河川環境を整備すること。河川環境の保全とは水質の維持や優れた景観を有するための区域の保全で、河川工事による環境に与える影響を最小限度に抑えるための代償措置が講じられることになった。

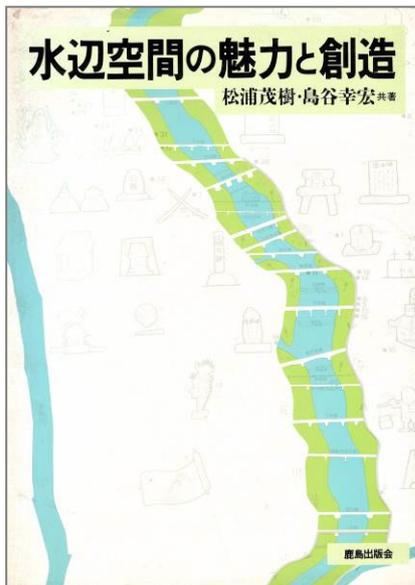
河川環境の復元のキーワードとして、水辺空間、多自然型かわづくり、親水、河川再生事業が挙げられる。河川法令研究会編著『よくわかる河川法』(ぎょうせい・2018)がある。



#### 2. 水辺空間の魅力

松浦茂樹・島谷幸宏共著『水辺空間の魅力と構造』(鹿島出版会・1987)は、人と水の係り方について、①水神等を祀る信仰活動、②農業・林業・観光業などの生業活動、③洗濯・魚とりなどの生活活動、④治水・利水・清掃に伴う社会活動、⑤川を場とした創作活動、⑥川を社会科・理科の授業の教材とする教育活動⑦水辺におけるレクリエーション活動を挙げる。このような活動を与えてくれる重要な水辺は、都市化が進むにつれて減少していると分析する。そのために水辺空間の魅力について、河道の特徴を活かし、中ノ島、砂州などの利用で川に流れを作り川の歴史を調べ、表示する必要があると指摘する。

中岡義介著『水辺のデザイン』(森北出版・1986)は、三つ



の水の文化が異なる水辺をつくりだす。一つはオリエントの乾燥砂漠に展開された湧水文化で、噴水に代表される。二つめは、溢水文化でメソポタミア等の乾燥地帯に展開される、水は豊かに注ぐものだとする。三つめは、水は無限に流れるとする日本の流水文化の展開である。山と谷がつくりだす複雑な風土とあいまって、日本人の自然観の基調をなす。これらの三つの水文化の観点から水辺空間を創造する。

さらに、水辺の再生をデザインする篠原修ら著『都市の水辺をデザインする』(彰国社・2005)。生態系の復元を図る中村太士編『川の蛇行復元－水理・物質循環・生態系からの評価』(技報堂・2011)は、アメリカのキシミー川、デンマークのスキヤーン、スロバキアのモラバ川の蛇行復元を論じる。また日本では、漂津川の蛇行復元の川づくりへの取り組みを捉える。ため池公園に都市空間をつくりだす、水辺空間を造りだす和田安彦・三浦浩之著『水辺が都市を変える』(技報堂・2005)は、それぞれ快適な水辺空間を創出する。ため池が農業用水の目的のみでなく、現代では、防災と親水の役割を持つことになってくる。

### 3. 河川景観の形成

河川景観を追求する土木学会編『水辺の景観設計』(技報堂・1988)では、河川景観の構成要素として、多種多様な要素がある。水面のさざなみ、岸辺の葦、河岸の松並木、屋根瓦と町並み、遠くの山も入る。さらにその要素として、河川と地域の係り方を含む。それは人間活動－人、自転車、船の動き、鳥や魚などの自然生態の生息の把握また必要である。これらをすべて含んだ河川景観の設計対象となる。

島谷幸宏編著『河川風景デザイン』(山海堂・1994)は、ヨーロッパ、アメリカ、日本の河川風景を実際に見て、コメントされている。日本の伝統的治水工についても、こまめに追及されていて、河川景観整備の計画・調査・設計を言及し、その河川計画設計手法を説いている。

吉村元男・芝原幸男共著『水辺の計画と設計』(鹿島出版会・1985)は、水防都市づくりとして「真間川流域水防都市構想」、親水公園として「古川親水公園」、「仙台堀川公園」、「更池・井沢池の修景」、「妙正寺川多目的遊水地」、「山城町不動川公園調整池」、「天ヶ瀬ダム・ダム湖周辺環境整備事業」等を捉えている。

「河川景観の形成と保全の考え方」検討委員編『河川景観デザイン』(リバーフロント整備センター・2008)がある。

